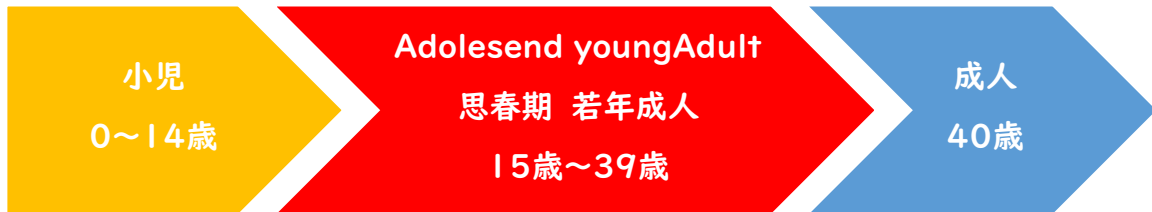


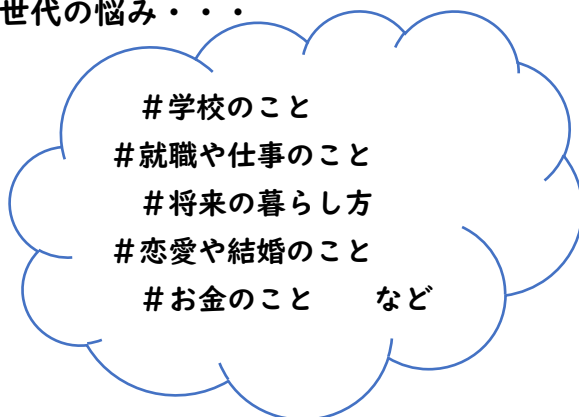
AYA世代の支援について

AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の頭文字をとったもので、主に、思春期（15歳～）から30歳代までの世代を指しています。



AYA世代は、多くの人にとって親から自立したり、生活の中心が家庭や学校から社会での活動に移行したりしていくなど、大きな転換期を迎える時期でもあります。このような時期にがんと診断されると、心身にさまざまな影響を受けることがあります。また、成人のがんに比べて情報が少なく見つけることが難しいなど、不安を抱く人も少なくありません。治療のことだけでなく、人生における重要なライフイベントに合わせ、患者さん一人ひとりへの支援が必要です。

AYA世代の悩み・・・



※AYA世代に関する情報サイト

[がん情報サービス「AYA世代の方へ（15歳から30歳代）」](#)

妊孕性（にんようせい）について

妊孕性とは

妊孕性とは「妊娠するための力（生殖機能）」のことをいいます。



妊孕性温存療法とは

妊孕性温存療法とは、がん治療により生殖機能の低下の可能性がある患者さん・ご家族に対して、治療前に将来の妊娠の可能性を残すために行う治療のことをいいます。

※妊孕性に関する情報サイト

- ・ [がん情報サービス「妊孕性」](#)
- ・ [福岡県ホームページ「小児・AYA 世代患者等妊孕性温存治療費助成事業のご案内」](#)

小児がんについて

小児がんは、小児がかかるさまざまながんの総称です。
一般的には、15歳未満にみられるがんのことです



※小児がんに関する情報サイト

[がん情報サービス「小児がんについて」](#)

相談をご希望される場合は、**がん相談支援センター**をご利用ください。
相談の内容によっては必要に応じて適切な医療機関等への連携を行います。

2026.4.30